



水稻編

病害虫注意報 2020年6月号



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

斑点米カメムシ

【カメムシの主な生息場所と対策】

カメムシは様々な場所に潜んでいます。被害を最小限にするために、生息場所を減らすための除草と、薬剤の防除を合わせて行いましょう！

① 畦畔雑草 (特にイネ科)



◆ 畦畔除草のポイント ◆

- ① 草刈機： 出穂14日前までに終わらせておく
- ② 除草剤： 出穂3～4週間前までに散布

畦畔除草にオススメ！

バスタ液剤

抑制期間が長く、さらに即効性！

500～1000ml/10a

収穫7日前/2回以内/水田畦畔
(雑草生育期:草丈30cm以下)

地上部のみ枯らす



② 水田内に残った“ヒエ”



◆ 残りヒエ除草 ◆

◇ ヒエのみ

- ・ クリンチャー EW
(収穫30日前/2回以内)
- ・ トドメMF乳剤
(収穫50日前/2回以内)

◇ ヒエ+広葉

- ・ クリンチャーバスME液剤
(収穫50日前・2回以内)

※クリンチャーEWとクリンチャーバスME液剤は合わせて3回以内

カメムシの薬剤防除は…

吸汁阻害効果が期待できる

粒剤がオススメ！！

薬剤防除
時期

出穂

穂揃期

傾穂期

成熟期

収穫

キラップ粒剤

3kg/10a 湛水散布
収穫14日前まで/2回以内
カメムシ類・ウカ類

※効き始めが遅く残効が長いため、**出穂10日前～出穂期が散布適期**です。

または

アルバリン粒剤

3kg/10a 散布
収穫7日前まで/3回以内
カメムシ類・イネミヅウムシ・イネノオムシ
ウカ類・コメイトウ・ツマグロコバエ

※成分吸収が早いため、**出穂後7日前後(穂揃期～傾穂期)が散布適期**です。

注) 止水した湛水状態で散布し、7日間は落水・かけ流しはしないこと。

適用害虫	薬剤名	使用倍率	使用時期	使用回数
カメムシ類 (2,000倍) ウカ類・ツマグロコバエ (3,000倍)	アルバリン 顆粒水溶剤	2,000～3,000倍	7日前	3回以内
イネノオムシ類・ウカ類・カメムシ類・コメイトウ ツマグロコバエ・ツマグロコバエ	キラップジョーカー フロアブル	散布:1,000倍 無人ヘリコプターによる散布:8倍	14日前	2回以内

★ 粒剤を防除の軸として使用し、液剤はカメムシの発生が見られた場合に散布してください。

★ 刈取りが遅れる場合は再度薬剤の散布を行い、収穫まで効果が続くようにしましょう！ 但し、収穫前日数にはご注意ください。